

35 根箭忠緑 耳木菟

みみずく

一点

昭和前期 白銅、鑄造

一五・〇×一五・〇×二七・五

シンプルな形が耳木菟の愛らしさを際立たせた飾壺。頭頂部が蓋になっており、つまみが付いている。大正から昭和初期にかけて、工芸界に大きな影響を与えた津田信夫やその周辺の作家たちが手がけた工芸作品に、形を簡略化し、その造形美を強調した動物を主題としたものが数多く含まれ、本作にもそうした工芸における当時の新しい表現の試みが見える。昭和二十年に昭和天皇香淳皇后より秩父宮雍仁親王へ贈られた品で、箱には「戦火をまぬがれし日出度御品として被進」との書付がある。なお、同型の別作品が財団法人鍋島報効会に所蔵されており、その伝来から昭和八年以前に制作されたことが知られる。箱には作者である根箭忠緑（一八九七～一九八七）の箱書きのほか、服部時計店の商標がある。また、底裏には「忠緑」の鑄造銘とともに、作品番号36の箱書きと共通する工芸成形社の鑄造印がある。

根箭は大阪に生まれ、大正十五年に東京美術学校鑄造科を卒業、蠟形鑄造を得意とし、昭和三年第九回帝展に入選、第十四回帝展では「黄銅鹿置物」で特選、翌年も特選を受賞した。昭和十一年には杉田禾堂を中心に大阪において結成された工芸団体「創工社」に参加している。

- ・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に出典を明記してください。また，図版を出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

花ひらく個性、作家の時代―大正・昭和初期の美術工芸

三の丸尚蔵館展覧会図録 No. 50

編集 宮内庁三の丸尚蔵館

制作 株式会社 東京美術

翻訳 横溝廣子

発行 宮内庁

平成二十二年三月三十日発行

© 2010, The Museum of the Imperial Collections